

## VI 再造林の推進に向けたコンテナの通年植栽試験

(実施期間：令和3年度～6年度 予算区分：県単 担当：滝田茉衣子)

### 1 目的

近年、再造林の省力化・低コスト化の推進のための切り札として注目されているコンテナ苗は、根と土が一体となった根鉢付きであるため、裸苗と比較して植栽後の乾燥に強いとされ、伐採、搬出、植栽までを連続して行う一貫作業システムに活用され、通年植栽の可能性が期待されている。

しかし、本県の気象条件での通年植栽の可能性は不明であるため、コンテナ苗の植栽時期の限界を明らかにする。

### 2 実施概要

#### (1) 方法

植栽比較試験を実施するため、令和3年4月から林業試験場内で、スギ（精英樹東伯3号）の裸苗405本、マルチキャビティコンテナ苗（根鉢容積150cc）440本を育苗し、育苗11カ月後の翌年3月に苗高、地際直径を計測した。

#### (2) 結果

苗高平均は裸苗30.1cm、コンテナ苗28.4cm、地際直径平均は裸苗5.0mm、コンテナ苗4.8mmであった。今後は実際に試験地に植栽して、調査を行う予定である。

### 3 結果の図表と研究の様子

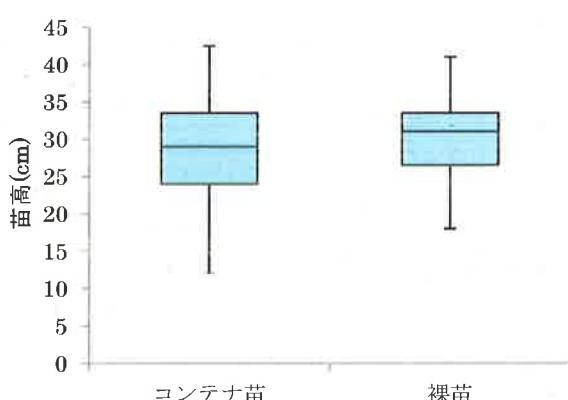


図1 苗高

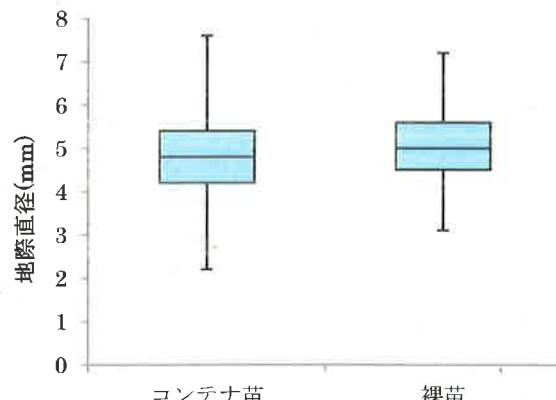


図2 地際直径

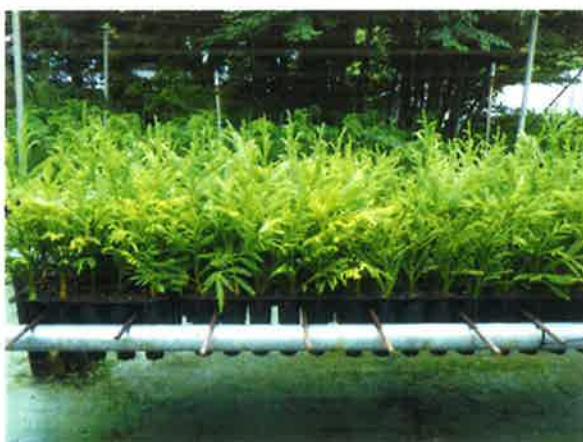


写真1 育苗中のスギコンテナ苗



写真2 スギコンテナ苗